

## 医学部生に対する英語学習に関する意識調査

長谷川真紀, 尾崎千夏

川崎医科大学 語学教室

(平成27年10月16日受理)

A Survey on Medical Students' Attitudes towards Learning English Language

Maki HASEGAWA, Chika OZAKI

*Linguistics Department, Kawasaki Medical School  
577 Matsushima, Kurashiki, Okayama, 701-0192, Japan  
(Received on October 16, 2015)*

### 抄 録

医療の国際化により, 日本人医学生の英語力強化が重要課題として認識されるようになった。川崎医科大学では, 1年次から4年次1学期にかけ, 英語を必修科目として開講している。第二言語習得においては, 動機づけが重要な役割を果たす。本稿の目的は, 学生の英語に対する姿勢を明確にすることによって, より効果的な動機づけに基づく英語学習プログラムを構築するための基礎資料を提供することである。

英語に対する意識, 英語学習に対する意識, 英語資格試験, および, 海外経験の四項目に関するアンケート調査により, 本学学生については, 英語に対する関心, 英語学習の必要性に対する認識がともに高いことが示された。その一方で, 英語に対する苦手意識が高く, その傾向が学年と比例して増加することも明らかになった。これらの結果から, 苦手意識軽減を意図した初年次英語プログラムの開発, および, 個々の学生の英語学習目標の具体化が必要であることが示唆された。

キーワード: 医学部生, 意識, 英語学習, 動機づけ, 関心, 苦手意識

### Abstract

Acquiring English-language ability has become an important task for Japanese medical students due to the globalization of medicine. In order to address the issue, Kawasaki Medical School provides the first through fourth year students with required English courses. Motivation plays a crucial role in the acquisition of a second language. This paper aims to discuss some factors that enable to build more motivational English programs, by illustrating the students' attitudes and values towards English. Questionnaires regarding the four categories, namely the attitude towards English language, the attitude towards learning English language, experience and interest in certified English tests, and interest in international opportunities, were administered, and it revealed various facts including the following. The ratio of students who have interest in English language and recognize the importance of learning English is high. On the other hand, a significant number of students lack confidence in English, and the number of students without confidence increases as

they move up. The results indicate that an English program which effectively supports the confidence building of the first year students and the clarification of individual student's goal are essential.

**Key words:** medical students, English language learning, motivation, interest, lack of confidence

## 1. はじめに

近年、医療の急速な国際化により、英語文献への対応のみならず、英語による研究発表や討議に耐え得る英語力の必要性が認識されるようになった<sup>1)</sup>。国立大学医学部長会議による提言(2012)においても、国際的医療に対応する医学教育の一環として、語学力強化の必要性が指摘されており、医療現場や医学研究で活用できる英語力の習得が課題として挙げられている<sup>2)</sup>。

川崎医科大学(以下「本学」)においては、「21世紀の医学・医療をグローバルな視点で捉える国際性の基盤である語学力やコミュニケーション能力を涵養するために、継続的な語学教育(英語・日本語)を行う」というカリキュラムポリシーの下、1年次から4年次1学期にかけ、英語を必修科目として開講している。2011年度には、大人数制の英語大クラスと、少人数制の英語小クラスを組み合わせた英語教育を導入した。1年生から4年生を対象とした、読解とライティングによる英文骨組みの理解を目的とする英語大クラスでは、学年単位で、学年全員が同一教室で2名の教員から講義を受けている。他方、1年生から3年生を対象とした、英語運用能力向上を目指す英語小クラスでは、各クラス10名程度で読解、ディスカッション、プレゼンテーションを中心とした演習に取り組んでいる。筆者の一人は、2011年より授業担当者として、また2014年度より、コーディネーターおよび授業担当者として英語小クラスの企画・運営に携わっているが、授業に積極的に臨み、英語の知識、運用能力ともに向上が見られる学生がいる一方で、英語習得への意欲が低く、英語知

識や技能の獲得に消極的で、学年を重ねてもその傾向に変化が見られない学生が少なからず存在するという感を得た。第二言語学習においては、動機づけ、すなわち、言語学習上の目標達成に対する努力と熱意、および、言語学習に対する好意的姿勢が、学習プロセスに大きな作用を及ぼす<sup>3)</sup>。Dörnyei(2001)は、第二言語教育場面における動機づけの要素として、学習言語に対する肯定的な価値観や姿勢の醸成や、明確な目標設定の重要性を挙げている<sup>4)</sup>。これらを踏まえ、本学において自律的かつ継続的な英語学習を推進するためには、学習者の英語学習に対する価値観や現状を把握した上で、より多くの学習者が明確な目的意識を持てるような仕組みを構築することが課題だと考えられる。

本稿の目的は、本学学生が有する英語および英語学習に対する意識を明確にすることによって、より効果的な動機づけに基づく英語学習プログラムを構築するための基礎資料を提供することである。

## 2. 方法

英語小クラス受講者である1年生から3年生を対象に、アンケート調査を実施した。アンケートは、2015年4月に、各学年とも英語小クラスの初回授業時に行った。その結果、1年生では127名、2年生では90名、3年生では124名、計341名のデータを得ることができた。設問の内容は主に、英語に対する意識、英語学習に対する意識、英語資格試験、および、海外経験に関するもので、選択式の項目と、英語学習に関して個々の考えを述べる自由記述式を組み合わせ

た(表1)。これらに加え、英語小クラスに関し、講師に相談したい事柄を自由に記述する欄も設けた。データの集計および分析には、QANA-VI2およびMicrosoft office Excel 2013を用いた。

表1 アンケート項目

設問1	英語にどの程度関心がありますか
設問2	英語は自分にとって得意科目ですか
設問3	英語の資格試験を受けたことがありますか
設問4	今後、英語の資格試験を受けてみたいと思いますか
設問5	TOEIC対策の授業があれば、受けてみたいと思いますか
設問6	在学中または将来、海外に滞在してみたいと思いますか
設問7	国際医療ミッションに参加してみたいと思いますか
設問8	良医を目指すにあたって、英語学習は必要だと思いますか
設問9	「良医を目指すにあたって、英語学習は必要だと思いますか」の回答について、なぜそう思いますか
設問10	英語小クラスに関し、講師に聞いてみたいこと、相談してみたいこと

※本研究に関連する項目のみを抜粋

### 3. 結果

#### 3.1 英語に対する意識

「英語にどの程度関心がありますか」については、「関心がある(図1, A+B+C)」と回答した学生が、1年生では93.6%, 2年生では

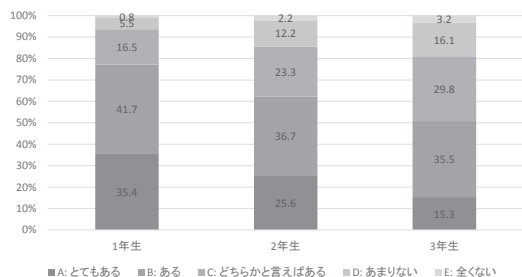


図1 「英語にどの程度関心がありますか」に対する回答結果

85.6%, 3年生では80.6%であった。一方、「英語は自分にとって得意科目ですか」に対しては、「苦手である(図2, C+D)」という回答が、1年生では61.4%, 2年生では64.4%, 3年生では72.6%と、過半数を占めている。

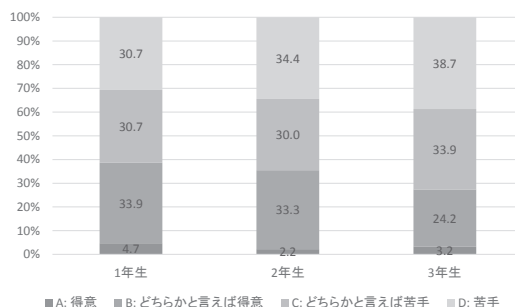


図2 「英語は自分にとって得意科目ですか」に対する回答結果

#### 3.2 英語学習に対する意識

「良医を目指すにあたって、英語学習は必要だと思いますか」に対し、1年生では93.7%, 2年生では90%, 3年生では87.1%が「必要であると思う(図3, A+B)」と回答した。必要であると思う理由として挙げられたのは、主に、情報収集および共有のため、医療現場で使用するため、の2種類であった。それぞれの理由の具体的な回答例を以下に示す。なお、回答者の表記のまま提示している。

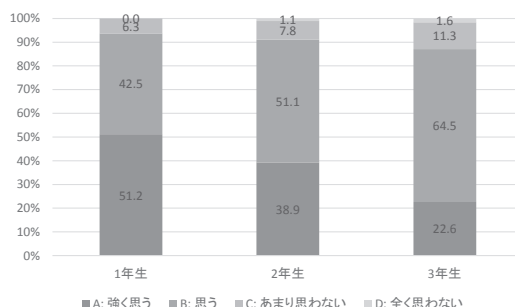


図3 「良医を目指すにあたって、英語学習は必要だと思いますか」に対する回答結果

- a. 情報収集および共有のため
- 最新の医学について勉強するため。
  - 医療は国際化しているので、最新の情報を得たり、提供したり、共有したりする時に必要だと思うから。
  - 「良医」といえるためには常にいろいろな情報を取り入れるべきであり、その情報をし入れるのに英語の論文を読むため。
  - 最新の医学論文は英語で書かれており、翻訳版を待っているのは遅いから。
  - どの文献を読むのにも必要であり、より学習の幅が広がるため。
  - 臨床医であっても、学会などで英語を必要とする機会がいずれあると思うから。
- b. 医療現場で使用するため
- グローバル化が進み、日本を訪れる外国人が増えれば、日本の病院にかかる外国人も増えると思うから。
  - 他の医療従事者や患者が日本人以外の場合もよく見られるから。
  - 日本で医師として働く場合であっても、外国の方である患者さんがいらっしゃった時に、英語で対応できないと良医とは言えないと思うから。
  - 患者さんと話すとき、外国人の方だと、英語が一番通じる可能性が高い。まず英語。
  - 今日、外国の方が日本に多数生活している。また全員が日本語を話せるわけではない。もしその人が患者として来た時に対応できるようにするため。
  - 将来、日本もグローバル化し、様々な外国人が日本に来ると思うため。また自分は将来、海外でも医師として勉強したいと思っているから。

その他の理由としては、医療交流の重要性や、多様な価値観の理解などが挙げられた。

他方、必要性が低い、もしくは無いという回答については、以下のような理由が挙げられた。

- 海外で活躍したい人は英語を学ぶべきだと思うが、そうでない人はある程度（困らない程度）の英語の能力があれば日本で働くのは苦労しないと思う。
- もし外国の患者が外来で来たのなら通訳をつければよい。
- 大学関係者なら使うこともあるだろうが一般の病院では英語で話し合うことはないから。
- 日本で英語を使う頻度が極端に少ないから。TPP<sup>註1</sup>や医学の国際化で外国の医師が日本に来て当たり前のような社会になれば必要性は増すと思う。

### 3.3 英語資格試験

大半の学生が何らかの英語資格試験の受験経験があることが明らかになった。「英語の資格試験を受けた経験はありますか」に対し、1年生では101名(80%)、2年生では67名(74%)、3年生では103名(83%)が実用英語技能検定の受験経験があると回答した。Test of English for International Communication (以下「TOEIC」)の受験経験者については、1年生が46名(36%)、2年生が35名(39%)、3年生が41名(33%)であった。Test of English as a Foreign Language (以下「TOEFL」)の受験経験者は各学年とも数名であった(図4)。「今後、英語の資格試験を受けてみたいと思いますか」に対しては、全学年ともにTOEIC受験を希望する学生が最も多く、1年生で80名(63%)、2年生で37名(41%)、3年生で46名(37%)という結果であった(図5)。なお、「TOEIC対策の授業があれば、を受けてみたいと思いますか」と

<sup>註1</sup> Trans-Pacific Partnership 環太平洋パートナーシップ協定

いう質問については、「思う」と回答した割合が最も高いのが1年生で72.4%であり、2年生は37.8%，3年生は29.8%に留まった（図6）。

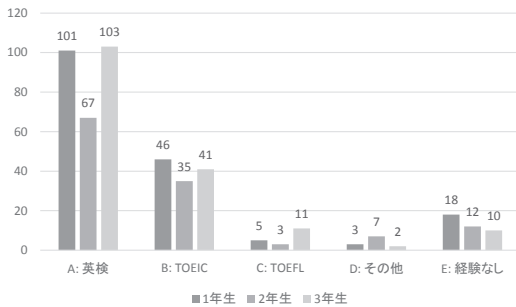


図4 「英語の資格試験を受けた経験はありますか」に対する回答結果（人数）

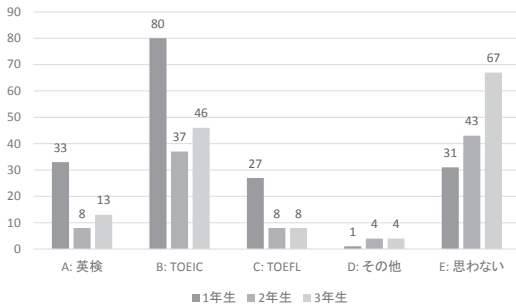


図5 「今後、英語の資格試験を受けてみたいと思いますか」に対する回答結果（人数）

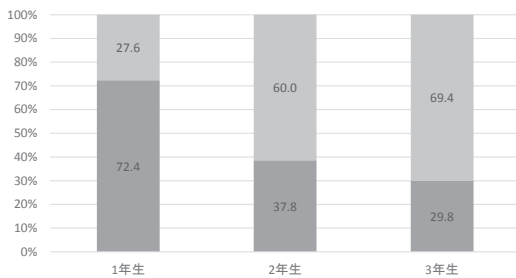


図6 「TOEIC対策の授業があれば、受けてみたいと思いますか」に対する回答結果

### 3.4 海外経験

「在学中または将来、海外に滞在してみたいと思いますか」に対しては、全学年とも「旅行で」との回答が最も多く、その次に多いのは「短期留学で」であった。また、長期留学や海外で

の仕事に関心を持つ学生が少なからず存在することも明らかになった（図7）。「国際医療ミッションに参加してみたいと思いますか」という問いに対し「思う（図8，A+B）」と回答した率は、1年生で65%，2年生で39%，3年生で31%と、学年が上がる毎に関心が低下する傾向にあることが判明した。

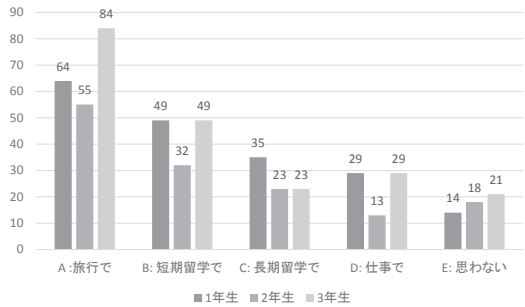


図7 「在学中または将来、海外に滞在してみたいと思いますか」に対する回答結果（人数）

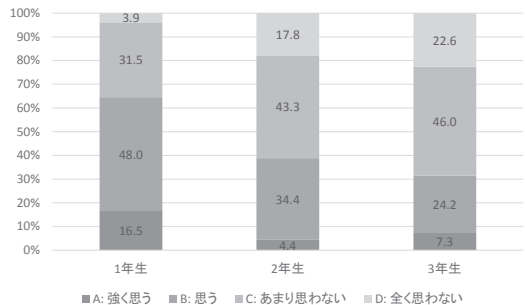


図8 「国際医療ミッションに参加してみたいと思いますか」に対する回答結果

### 3.5 英語小クラスに関し、講師に相談したい事柄

「英語小クラスに関し、講師に聞いてみたいこと、相談してみたいこと」という自由記述欄を設けたところ、学習法に関する質問と、英語学習に対する不安が最も多く挙げられた。それぞれの解答例を以下に示す。なお、回答者の表記のまま提示している。

#### a. 学習法に関する質問

- 聞き取れるレベルから話すレベルに挙げ

るには、どうすればいいか。

- うまく頭のなかで英文が作れないのですが、英作文の訓練を行った方がいいですか。
  - なんとかして英語が文法、スピーキング共に、海外滞在で困らない程度に向上する方法はないでしょうか。
  - リスニング力を向上させたいのですが、良い方法はありますか。
  - 留学せずに英語を独学することについて。(日本在住において)英語力を上げるには何をしたらいいか教えて欲しい。
- b. 英語学習に対する不安
- あまり英語に関して得意だと思いがなく、話についていたり、自分で話すことに不安が多くあります。
  - 全然英語ができなくてスムーズに授業ができるか不安である。
  - 英語が全くできません。
  - 自分は他の人に比べて英語力が低いので、特訓してほしいです。
  - ディスカッションに対しての自信がないです。

## 4. 考察

### 4.1 英語に対する意識

どの学年でも共通して、英語に対する関心を持つ学生が多い反面、苦手意識が強い傾向にあることが明らかになった。このことは、「英語小クラスに関し、講師に相談したい事柄」の自由記述において、その半数近くが英語学習に対する不安に関する内容であったことにも表れている。また、学年が上がるに従って、英語が苦手であると答える学生の割合が増加している。苦手意識と学年の比例関係については、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能の基礎力や適切な英語学習習慣を確立しないまま学年が上がると、より難易度が高い教材や授業内容に対応で

きなくなることが一因であると考えられる。前述の自由記述で、2年生や3年生からも学習法に関する相談が相当数挙げられたことにも注目すべきであろう。なお、医療系学部生の英語に対する苦手意識については、他教育機関の研究でも同様の傾向がみられる。例えば、沖縄県立看護大学における新入生に対する意識調査(2005)では、93%の学生が英語に興味を示す一方で、79%が苦手であると回答している<sup>5)</sup>。また、東京医科大学が2006年に実施した、医学英語教育に対する医学生の意識調査においては、自分の英語能力に不安を感じている学生が、1年生で68.5%、2年生で62.7%、3年生で66.7%、4年生で74.7%、5年生で76.2%、77.6%と、高学年ほどその割合が高くなっている<sup>6)</sup>。

### 4.2 英語学習に対する意識

前述の通り、英語に対して苦手意識を抱く学生が多数いるものの、医学生が英語を学習する必要性の認識は高いことがわかった。さらに、「良医」となるためになぜ英語が必要だと思うのかについて、ほとんどの学生がその理由を示していることから、将来、自分が英語をどのような場面で用いる機会があるのか、ある程度のイメージを有していると思われる。これらのイメージは、英語学習の目標設定に役立つ重要な要素になると考える。

### 4.3 英語資格試験

英語資格試験受験への関心は、学年と反比例している。要因として考えられるのは、学年が上がるにつれ専門科目の必要学習時間が増加し、英語資格試験受験の準備に向けられる時間や意欲が低下する傾向にあること、また、英語自体についても、一般的な内容よりも、医学に関する英語により高い関心が向けられることなどである。なお、受験に関心があると答えた学生については、どの学年でも、過去の受験経験では実用英語技能検定の割合が最も高かった

が、今後受験してみたい検定については、TOEICという回答の割合が圧倒的に高かった。その背景として、国際化社会においてTOEICの認知度が高まっていること、継続的に英語能力が測定できることなどが挙げられよう。

#### 4.4 海外経験

海外滞在について最も回答が多かったのは「旅行」であった。実際、過去に海外旅行経験を有している学生や、長期休暇に海外旅行に出る学生が本学では比較的多く、この結果に影響を及ぼしていると思われる。2番目に回答数が多い「短期留学」についても、同級生や上級生など、周囲にいる短期留学経験者から話を聞く機会のある学生が多いと考えられる。また、学内で留学経験者の報告会も開催しており、学生の留学に対する関心につながっていると考える。国際医療ミッションへの参加については、1年生回答者の65%が関心を示したことが注目に値する。1年生は、上記の海外滞在についても関心があると答えた回答者が多く見られたことから、海外志向が強い学年であることが示唆されている。

### 5. おわりに

今回の調査により、本学学生の英語との関わりについて次のことが明らかになった。英語に対する意識については「英語に対する関心が高い反面、苦手意識を有する学生が多い」こと、英語学習に対する意識については「医学生による英語学習の必要性に対する認識は高く、英語学習についてある程度の目標観を有している」こと、英語資格試験については「1年生が、英語資格試験受験、特にTOEICに高い関心を示している」こと、海外経験については「留学や国際医療ミッションに関心を持つ学生が相当数存在し、特に1年生は海外志向が強い」ことである。

英語に対する関心や英語学習の必要性に対す

る認識は高いことから、今後、本学における英語教育をより効果的に進める鍵の一つは、早い段階での苦手意識の軽減であると考ええる。第二言語習得において、学習言語に対する肯定的な姿勢が重要であることを鑑みれば、苦手意識軽減を意図した初年次英語プログラムの開発が不可欠である。筆者が所属する語学教室のこれまでの経験から、本学学生は初年次から、英語授業においても医療に関連した題材を好む傾向にあることがわかっている。そのため、学生が関心を持って取り組める題材の選定や、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能の基礎力を着実に強化するための言語活動の検討が、今後の課題である。また、筆者の本学での教育経験から、英語知識や運用能力が比較的高い学生、すなわち英語の成績が十分と捉えられる学生の中にも、苦手意識を有する学生が含まれていることがわかっている。そのため、英語を苦手科目として認識している要因について、より詳細な調査が必要であろう。苦手意識の軽減に加え、各自が持つ英語学習に関する目標観を、適切な時期に段階的に具体化することができれば、第二言語学習の動機づけの要素の一つである明確な目標設定が円滑に進められる。その一方で、医学生にとって英語学習の必要性は低いと考えている学生もおり、これらの学生の目標観を引き出す工夫も必要である。資格試験については、特に1年生がTOEIC受験への高い関心を示している。TOEICは英語学習の中期目標の可視化につながることを期待でき、測定範囲も広いため、今後、学内での受験の機会について検討したい。また、留学や医療ミッションなど、海外経験を積みたいと考えている学生が相当数いることが示唆された。そのため、海外活動経験を有する医療職者に連携を要請し、これらの学生のニーズに対応できる体制を整えることも今後の課題としたい。

## 謝辞

本研究の実施にあたり、アンケート調査に協力してくださった本学学生をはじめとする関係各位に、心から感謝致します。

## 参考文献

- 1) 大橋 浩：医学英語教育の現状と課題およびその改善へ向けての提言－日本医学英語教育学会第5回学術集会に参加して－. 産業医科大学雑誌 24：429-437, 2002
- 2) 国立大学医学部長会議：国立大学における医学教育の現状と今後のあるべき姿を求めて－国立大学医学部長会議からの提言－. 2012
- 3) Gardner RC: Social Psychology and Second Language Learning. The Role of Attitudes and Motivation. Edward Arnold. 1985
- 4) Dörnyei Z.: Motivational Strategies in the Language Classroom. Cambridge University Press. 2001
- 5) 與那嶺敦, ウィルコックスDC：沖縄県立看護大学新入生の英語に対する意識について. 沖縄県立看護大学紀要 6：33-39, 2005
- 6) 金澤 直, バロン JP, ブルーヘルマンズ R, 山本敬子：医学英語に対する医学生の意識調査. Journal of Medical English Education 5：99-106, 2006